

15 緑と暮らす ①

インドアグリーン 冬越しのテクニク!



緑の鉢植えをひとつプラスするだけで空間に表情がついて、みずみずしく生き生きとすることができますね。

インドアグリーンのレイアウトは、インテリアの「仕上げ」ともいえるもの。

ただ、「グリーンを飾りたいけれど、すぐに枯らしてしまっ」「管理が面倒……」という声も多く、とくに乾燥しがちな季節に枯らしてしまっ人が少なくありません。

そこで、冬でも上手にグリーンを保つテクニクをご紹介します!

グリーンが目利きになる!

グリーンがたくさん置いてあるインテリアに憧れるけれど、何度チャレンジしても枯らしてしまう。私って、もしかして「枯らし屋」さんかしら……そんなお悩みを持っている人って、意外と多いのです。

どうせうまく育てられないからグリーンは置かない!となりがちですが、じつはお手入れや育て方以前に原因があったりします。購入時に、あまり丈夫でないものを選んでしまっているケースが多いのです。

良い株をちゃんと目利きして選べば、その後の成長もスムーズなのでお手入れもラクになります。



他に、「枯れたり、黄色く変色した葉がないこと」「害虫やその排泄物がついていないこと」

check point 1

- 新葉が中心から次々と出ている
- 葉の色ツヤが良い
- ✕ 新葉が出ていない
- ✕ 葉が変色している、ツヤがない

check point 2

- 葉がつまっている
- 葉が勢い良く立っている
- ✕ 葉に力がない
- ✕ 葉のつまり方が、間延びしている

check point 3

- 葉が生きている
- 下葉もしっかりしている
- ✕ 下葉が落ちている
- ✕ 下葉が垂れている

check point 4

- 根元がしっかりと安定している
- ✕ 根元が安定せず、ふらついている

今、買うなら、寒さに強い品種を選んで

インドアグリーンは多くは熱帯や亜熱帯が原産の植物ですから、そもそも寒さが苦手です。そのうえ日本の冬の室内は寒暖の差が激しく、暖房による乾燥も大敵。グリーン上手な人でも枯らしてしまうことがあるほどです。

今、グリーンを買うなら、耐寒性のある品種がおすすめです。クリスマスやお正月シーズンを前に、あまり手を掛けなくて済むグリーンを選ぶのもテクニクのひとつです。



失敗の多い冬を上手に乗り切るには？

室内で植物をすこやかに育てるには、3つの条件があります。それが「水」「光」「温度(10℃以上)」で、これは季節にかかわらず基本条件です。

さらに、冬ならではのお手入れのコツをご紹介します。

● 水やりは1日待つ

土の表面が乾いて白っぽくなくても、もう1日待ちましょう。すぐに水を与えないことで、「寒さ負け」をしない強い株に育てることが出来ます。

● 乾燥防止に、葉水を

高温多湿を好むインドアグリーンは、暖房した室内でも乾燥によってダメージを受けがちです。できれば加湿器などに頼らずに、霧吹きでこまめに葉水を与えてあげましょう。

● 肥料は与えない

冬は植物の生長休止期ですから、原則として肥料を与えません。この時期の肥料は根を傷め、株を衰弱させてしまいます。

● 春からの心がけも大切

春から秋にかけては、十分な光と肥料、水を与えてあげましょう。そうすることで、冬の厳しさに耐えられる株に育ちます。



冬の水やり

- ・土の表面が乾いても、1日待つ!
- ・いざ水やりは、暖かい午前中に
- ・受け皿の水は、必ず捨てて

葉水で乾燥防止

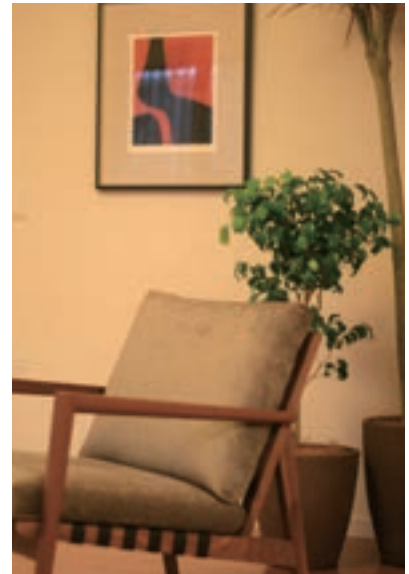
- ・冬の乾燥は葉の美しさの大敵
- ・霧吹きで水分補給をこまめに!

green interior

玄関や収納スペースもグリーンで彩って、日々の暮らしを美しく。耐寒性があり、あまり手入れの要らない、丈夫な品種を選んで。



お気に入りのチェアや絵のそばにグリーンを置けば、そこに視線が集まります。くつろぐときも、いっそう心地良く。



濃色のインテリアには、繊細な形の葉を持ったグリーンがよく似合います。写真はエバーフレッシュ(ネムノキ)で、夜や水分不足になると葉を閉じます。



日が沈んだらすぐにカーテンを引いて、室温をキープ! とくに寒さに弱い品種は、夜はビニールや箱をかぶせてあげると寒さ対策になります。



日中は「ガラス越しの光」をたっぷり当ててあげましょう。暖房器具からの風が直接当たらない位置に置き、時々、葉水もお忘れなく。



暖かい午前中に外へ出して、鉢底からたっぷり流れ出るほど水をあげましょう。リビングの床とフラットなバルコニーがあれば、水やりもらくらく。

バルコニーガーデンとリビングのインドアグリーンが連動するように配置すると、緑に包まれているような空間を演出することができます。



暖かい日はウッドテラスに鉢を出して、たっぷりと水やりを。そのまま一緒に日光浴を楽しみましょうか。



室内のスタイリングは、葉の大小や高低をつけるのが成功の秘訣。葉の色の濃淡や斑(ふ)入りなども寄せ植えてみましょう。

冬の彩りを、グリーンにプラス!

シクラメンやポインセチアなどはプレゼントでいただくことも多く、すっかりおなじみの身近な顔ぶれかもしれませんね。ですがちょっとしたお手入れのコツで、美しい姿をより長く楽しむことができるんです。冬の室内を、季節ならではの色で華やかに彩りましょう。



ポインセチア

- クリスマスシーズンに出回ることから寒さに強いイメージがありますが、じつはメキシコ原産。寒さに弱いため、10~3月は室内で管理したい植物です。
- 1年で枯らしてしまうことが多く草花のように思われがちですが、じつは低木。苞(ほう)と呼ばれる部分です。
- 室内では陽当たりの良い場所に置きましょう。光が足りないと、下葉が落ちてしまいます。



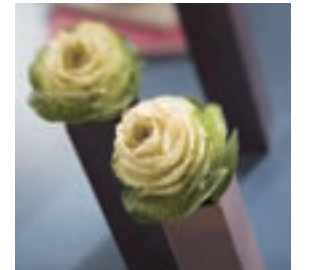
セントポーリア

- 寒さと直射日光を嫌うので、まさに室内向き植物。冬は陽当たりの良い室内、夏もレースのカーテン越しの光の中で育てましょう。
- 水やり時は葉を濡らさないようにするのがポイント。水がかかると、シミになってしまいます。
- 深く根が張りにくいので株があまり大きくなりません。窓辺やちょっとしたコーナーを飾る、小さめの鉢で育てるのがおすすめです。



シクラメン

- 購入したシクラメンはある程度花を咲かせてあるので、暖房のきいた部屋では花茎や葉が伸びすぎて倒れてしまいます。10~3月は陽当たりが良く暖房の入っていない窓辺、玄関などに置くのがおすすめです。
- 花・葉・球根に水がたまると、腐りやすくなります。直接かからないように、鉢の縁から水やりしましょう。
- 花が終わったら茎をねじりながらひっぱって、根元から抜いてください。どんな花芽が出てきます。



ハボタン

- お正月飾りとして欠かせないハボタンですが、そもそもは渡来したキャベツの仲間。洋の空間で、ちょっと新鮮なスタイリングを楽しんでみてはいかがでしょうか。
- 鉢植えを室内で育てると葉色が悪く、間延びしてきますが、切り花を花瓶に入れておくと根が出るほどの強さを発揮します。